

子どもの心が動く健康教育をめざして —大学との連携—

佐藤 喜世恵・加藤 容子

【抄録】 健康の大切さを痛感することの少ない中高生にとって、心が動く健康教育とは何だろうか。健康的な生活の術も知識としては持っている。しかし、それを自らの生活の中に生かし、行動を選択したり、継続したりすることができるかという疑問が残る。そんな現状に一石を投じるため、名古屋大学医学部予防医学教室の協力で、中学2年生、中学3年生、高校1年生を対象に健康教育を試みた。

【キーワード】 性 避妊 性感染症 生活習慣病 運動 栄養 休養

1. はじめに

中高生期は、心身ともに急速に発達する時期であり、健康で豊かな生涯を過ごすための土台を築くときでもある。しかし、心もからだも大きく変化することに戸惑い、悩む時期でもある。生徒それぞれが成長の過程で、多くの課題に直面し、それに対応するため、意志決定や行動選択をせまられる。また、中高生は、親の生活管理から徐々に外れ、自分らしいライフスタイルを築いていこうと模索する時期の始まりでもある。しかし、ゆとりのある生徒は少なく、時間に追われている。さらに、生活が乱れてもいつでもコンビニエンスストアなどで食事ができる環境の中にある。そんな環境の中で、この不安定な時期を乗り越え、生涯にわたって健康な生活を営む態度や能力を身に付け、豊かな人生を送るために、健康教育の意義は大変大きいと考えられる。

以上のようなことから、大学と積極的に連携をとることにより、より専門的な立場からの情報、知識を生徒に提供し、心身に及ぼす影響を医学的に学び、様々な立場、幅広い観点から健康教育を問い直すことが出来ると考え、保健および総合学習にて健康教育を実践した。

2. 各学年での取り組み

(1) 中学2年生

①実施時間

総合人間科にて1時間

②指導の目標

中学2年生の大テーマ、「生命と環境」を自らの問題として捉えるため、そのひとつ、「性」の

問題について、避妊についての現状、問題点、望ましい避妊方法について理解し、命について考える。(資料ア)

③指導の方法

他講座と同時開催し、希望者が選択し、少人数で実施

④授業者

名古屋大学医学部学生 山之内高志

⑤生徒の様子

授業者が生徒と年齢も近く、少人数であったためか、積極的に生徒からの意見が出ていた。以下に生徒の感想を抜粋する。

『ちゃんと避妊していない人がフランス・アメリカに比べて多かったので悲しく思いました。最近、赤ちゃんが殺されたりするのもこういうのが原因かなと思います。なぜ、こういうことが起こるのか、両親に聞いてみました。そしたら、「お父さんたちが学生の頃はそんな避妊とかの授業はエロいからよくないと言われていて、行われていなかった。」と言いました。エロくても何でも知らなくちゃいけない大切な事だと思います。顔を背けてはいけません。むしろ、突っ込んでいくべきです。』

『今まで、性についてはわかっているつもりでしたが、今回、授業を受けて、いかに自分が性について無知であったかということを感じました。「性」という物はイコール「生」だということを心に置き、性と付き合っていきたいと思います。』

資料ア

中2 性についてQ7/A

Q、体の性に関係する器官は、若くもおとろえるのか、また、どうするとそうなるのか。
A、個人差があるわけではありませんが、男性では勃起しなくなることはあります。おとろえるというより、原因はほとんどストレス、強い疲労だとされています。女性の場合、ストレスや体調、急激な体重減少で月経が不規則になることはよく知られています。

Q、どうやったら精子が体の中に入るのか。
A、男性のペニスで女性の膣に入り（性交）、精液が女性の体内に入ります。

Q、どうして性交じゃなきゃ子どもができないのか。
A、精子が卵子の中に入り（受精）、できた一つの細胞が赤ちゃんの元になります。性交しなくても人工的に女性の子宮内に精子を入れる方法（人工受精）もあります。

Q、本能ってなに？
A、人間が生きていくために子孫を残すために必要な能力。食欲、性欲、睡眠欲など。

Q、胸はどうしたら大きくなるか。
A、おっぱいはほとんど脂肪なので、太れば大きくなりますが・・・。

Q、なぜ性欲はおこるのか。
A、子孫を残そうという本能なので止めることはできません。でも、人間はコントロールしています。

Q、エロイのに慣れたる男子はちょっとやそつとじゃ立たないの？
A、慣れている、元気な人は元気なようです。セックスする時の状況で違うようで、精神面がかなりおきいようです。

Q、精子の進む速さは？
A、毎分3ミリだそうです。体長が0.06ミリなので1秒に自分の体長ぐらい進むことになります。

Q、性病には？
A、エイズ、りん病、ばいどく、クラミジア、トリコモナス、性器ヘルペスなど。症状は、無症状なものもあるし、かゆくてかゆくて・・・さまざまです。

Q、女性ではおりの以外に出る液体はあるのか。
A、セックスをするとき、スムーズにペニスがはいるために膣分泌液を出します。それから、月経血も膣からでます。

Q、たまって出されない精子は吸収されるって、何に吸収されるの？
A、受精できなかった精子は、白血球に食べられ、血液にのって子宮外へ。

Q、オナニーとは何？
A、マスターベーションともいいますが、自分で性器を刺激して快感を得ることです。

Q、オナニーするとどうなるの？
A、快感に達すると筋肉のけいれんがおこります。何度しても害はありません。

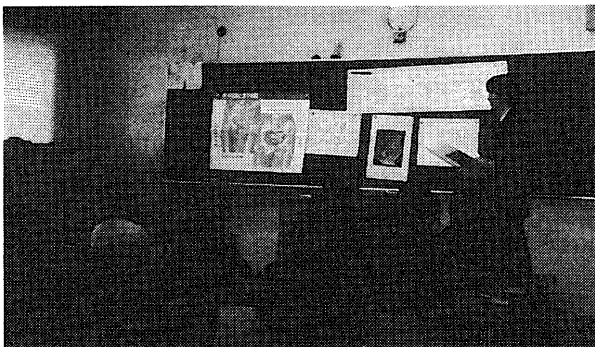
Q、包茎はどうすれば治るか。手術代は？
A、西洋のように翻しの手術（包皮のカット）をしていないため、ほとんどの日本人は仮性包茎です。勃起をしたとき亀頭がでればもんだいなし。出ない人は徐々に亀頭をだすように包皮をむいていけば、だんだん出てきます。亀頭がどんな状態かによって、手術代はちがいます。

Q、包茎のまま大人になるとどうなるか。
A、仮性包茎なら問題なし。亀頭がでていなくても、勃起したとき痛みがなければOK。

Q、どうしたら、インポになるの？
A、病気の場合もありますが、ほとんど精神的な原因だと言われます。

Q、赤ちゃんがおなかにいる状態で子づくりするとどうなるか。
A、この場合は、さらに1人子どもができることはありません。（だから「子づくり」ではなくセックスと誓いますが）普通にセックスできます。ただ、あまりに激しいセックスは流産の原因になるときもあるようです。

『自分では、なかなかわからなかったこと、不思議に思っていること、普通は恥ずかしくて、誰かに聞こうと思っても聞けないことなども、今回わかって、不安に思っていたことも、その原因についても正しい答えを知ることができ、自分自身の体や心について安心できるようになりました。また、一見あまり表に出さないようなことでも、ちゃんと知っておかないといけない大切なことを、しっかり自分の知識として身につけることが出来ました。とても良い経験になりました。』



(2) 中学3年生

① 実施時間

保健授業にて5時間、クラス単位

② 指導の目標

生活習慣が健康状態と密接に関係していること

を理解し、現状の問題点が、どんな健康問題を生み出しているかを考える。そして、生活習慣病の予防として、運動・栄養・休養に関してより良い生活習慣を実践できる能力を養う。そのために、生徒自身の現状を自覚し、改善すべき点、維持していくべき点を認識する。また、生活習慣病の発病誘因の一つである喫煙の誘惑に負けない強い意志を持つようにする。

③ 授業者

名古屋大学医学部予防医学

玉腰暁子助教授

名古屋大学医学部学生 横井綾

本校教官

佐藤喜世恵

④ 指導の経過

ア 事前調査

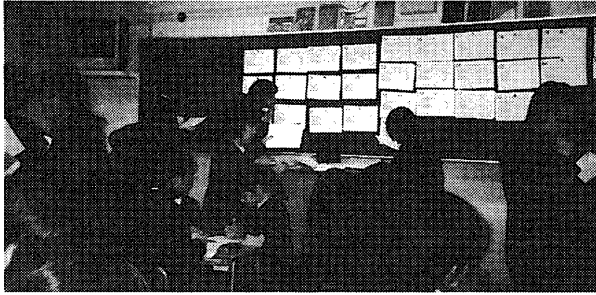
- ・希望者に血液検査（貧血・HDLコレステロール・LDLコレステロール・中性脂肪）
- ・3日間の運動量の測定
- ・3日間の食事調査、生活調査

イ 保健授業

授業1－生活習慣病について

動脈硬化、高血圧から脳梗塞、脳出血、狭心症、心筋梗塞などの生活習慣病が起こるメカニズムを理解する。血液検査の

データをどのように読み取り、活かせばよいのかを理解する。



授業2 - 食生活と健康

各自の3日間の食事調査結果を考察する。また、学校で販売されているパンの栄養所要量などについて考え、生徒自身が食事を購入する時、バランスの良い選択ができるようにする。現状の食生活の問題点や生活習慣病との関係を考える。

(資料 a. b. c. d)

授業3 - 睡眠と健康

3日間の生活調査より各自の睡眠パターンを認識し、疲労回復と睡眠との関係、健康的な睡眠のリズム、生体リズムの乱れと生活習慣病の関係をブレインストーミングで考える。(資料 e. f)

授業4 - 運動と健康

3日間の生活調査、万歩計測定から、運動量、総エネルギー消費量を読み取り、各自のエネルギー消費量と栄養摂取量のバランスを理解し、生活習慣病予備軍について、健康の保持増進と運動について考える。

授業5 - たばこの害と健康

喫煙の急性影響、慢性影響や、喫煙者の運動、知的作業の能率と喫煙の関係、少年の喫煙と呼吸器病率、妊婦への影響などを理解し、喫煙をしないようにするためにはどうしたらよいか考える。(資料 g) (文責: 佐藤喜世恵)



資料 a

15歳(中等度の活動)の栄養所要量	
男	女
(基準値)	
身長	169.3cm
体重	59.62kg
エネルギー所要量	2700kcal
脂質所要量	25~30% (脂肪エネルギー比率)
タンパク質所要量	90g (75~90g)
糖質の摂取量は総エネルギー比の少なくとも50%以上であることが望ましい	70g (63~75g)

食品の栄養表示例

食品グループ

牛乳製品・卵グループ

- a 牛乳・乳製品(牛乳1本=1点, ヨーグルト=1点)
- b 卵(鶏卵1個=1点)

肉・魚・大豆グループ

- c 魚介類・加工品(1切れ=1点)
- d 肉類・加工品(1枚=1点)
- e 大豆・加工品(納豆=2点, 豆腐1/2丁=1点)

野菜グループ

- f 緑黄色野菜(ほうれん草1束=1点, かぼちや1/8個=1点)
- g 淡色野菜(大根1/3=1点, スイートコーン小1本=1点)
- h 芋類(じゃがいも1個=1点, さつまいも1/3=1点)
- i 果物(オレンジ・バナナ・りんご=1点)

穀物・糖・脂肪グループ

- j 穀物(茶碗1膳=2点, パン1枚=1点, 麺類1玉=3点)
- k 砂糖(大さじ2=1点, ジャム大さじ1=1点)
- l 油脂(バター・マヨネーズ大さじ1=1点)
- m ナッツ類(ピーナッツ・アーモンド大さじ1=1点)

資料b

お昼ご飯に何を買おう？

			エネルギー	タンパク質	脂質	炭水化物	食塩相当量	食品・乳・卵製	大豆・魚	野菜	糖・物・脂肪	穀物	食品数
			kcal	g	g	g	g						
朝食	トースト	1切れ+ジャム、バター	256	5.1	8.8	39.1	1.0				j,k,l		3
	牛乳	200ml	118	5.8	6.4	9.0	0.3	a					1
	ミカン	1個	44	0.8	0.1	11.2	0.0			i			1
昼食													
夕食	ご飯	1杯	244	4.3	0.8	52.5	0.0				j		1
	豚汁	1杯	133	9.9	5.3	12.0	1.8		d,e	f,g,h			7
	ハンバーグ		405	17.1	26.7	22.8	2.7	b	d	g			3
	サイインゲンお浸し		16	1.7	0.1	3.3	0.8			g			1
	粉吹芋		77	2.0	0.2	17.3	0.5			h			1
間食	オレンジジュース	200ml	80	1.0	0.2	21.0	0.0				i		1
	ポテトチップス	1/3袋(30g)	160	1.4	10.6	15.8	0.3			h	l		2
			1533	49.1	59.2	204.0	7.4						21

豚肉、大根、人参、ネギ、豆腐、里芋、油揚げ
牛肉、玉ネギ、卵

資料c

学年 3 クラス 番号 名前 12月 9日 木曜日

0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時
				睡眠		朝食	身だしなみ
8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時
放課	朝礼	体育	放課	公民	放課	総合	放課
16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時
放課	おやつ	テレビ	体操	ラジオ	夕食	テレビ	風呂
						勉強	読書
							睡眠

食事内容

朝食	昼食	夕食	その他
ロールパン 1個 牛乳 1杯	きんぴらごぼう、ちくわ たまごやき、ウインナー ごはん	魚のフライ サラダ みかん	クッキー

総消費量 1816 kcal 運動量 237 kcal 歩数 9190歩

資料d

3年組 番号 氏名

12月 日のあなたの食事の取り方の
良い点はどこでしょう。

1. 良い点はどこでしょう。
 1. 良かったいバランスよとわけていると思われる

2. 悪い点はどこでしょう。
 2. 野菜をあまり食べていない
 おかしの量を減らさなければ
 油をたくさんとりすぎる

3. 何を工夫したら良い取り方に近づけますか。
 上の悪い点を気をつけよう。

4. 今日の授業の感想を何でも
 3. だんあまり考えていけよと
 考えられてよかった。

資料e

● 睡眠時間、レム睡眠、ノンレム睡眠の年齢に伴う推移 (文献より)

● 午前9時の脳をカラーグラフでみると

● 健康な睡眠のリズム

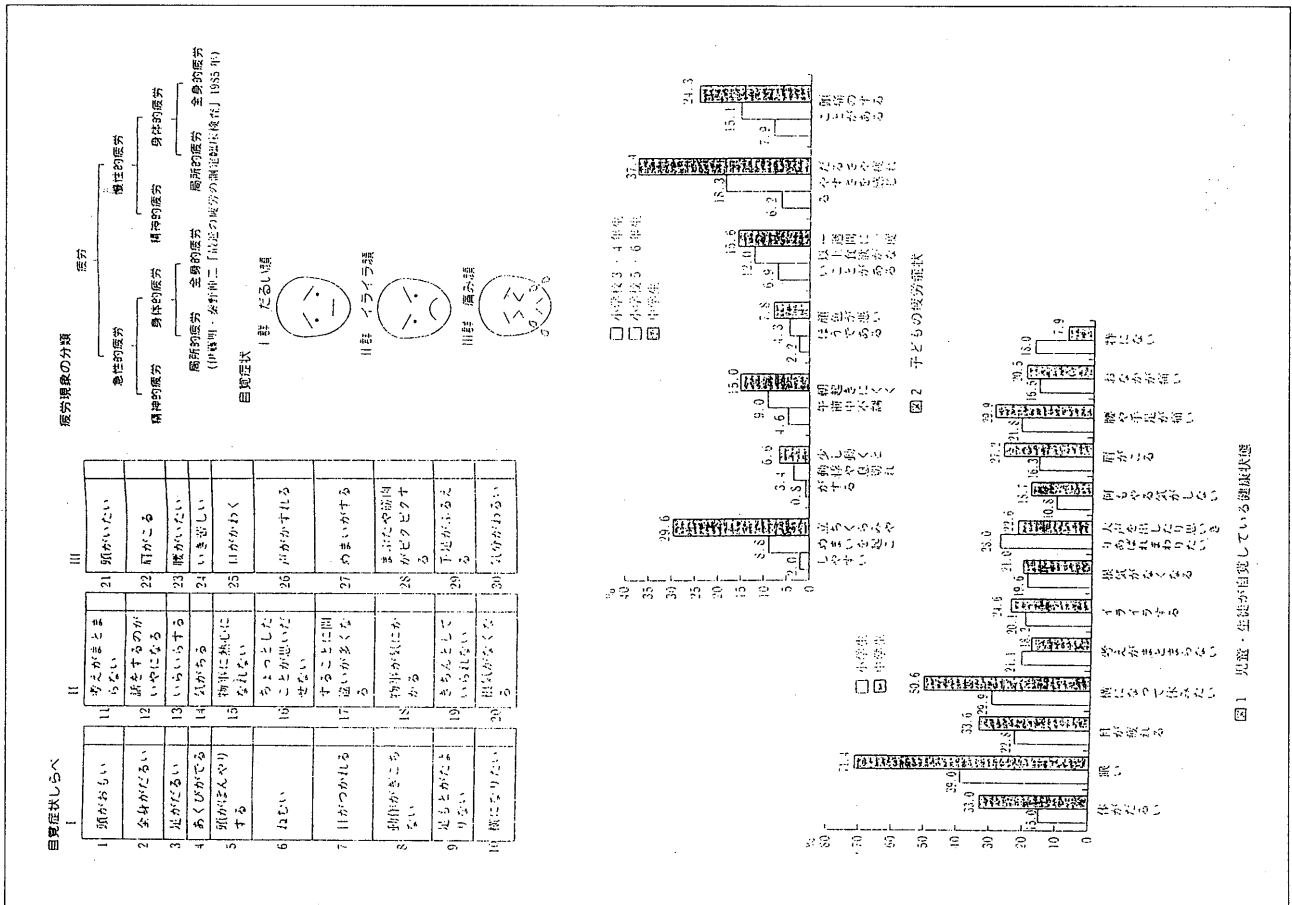
● 睡眠中の成長ホルモンの分泌

● 年齢別にみた子どもの睡眠時間の傾向 (昭和57年~平成8年)

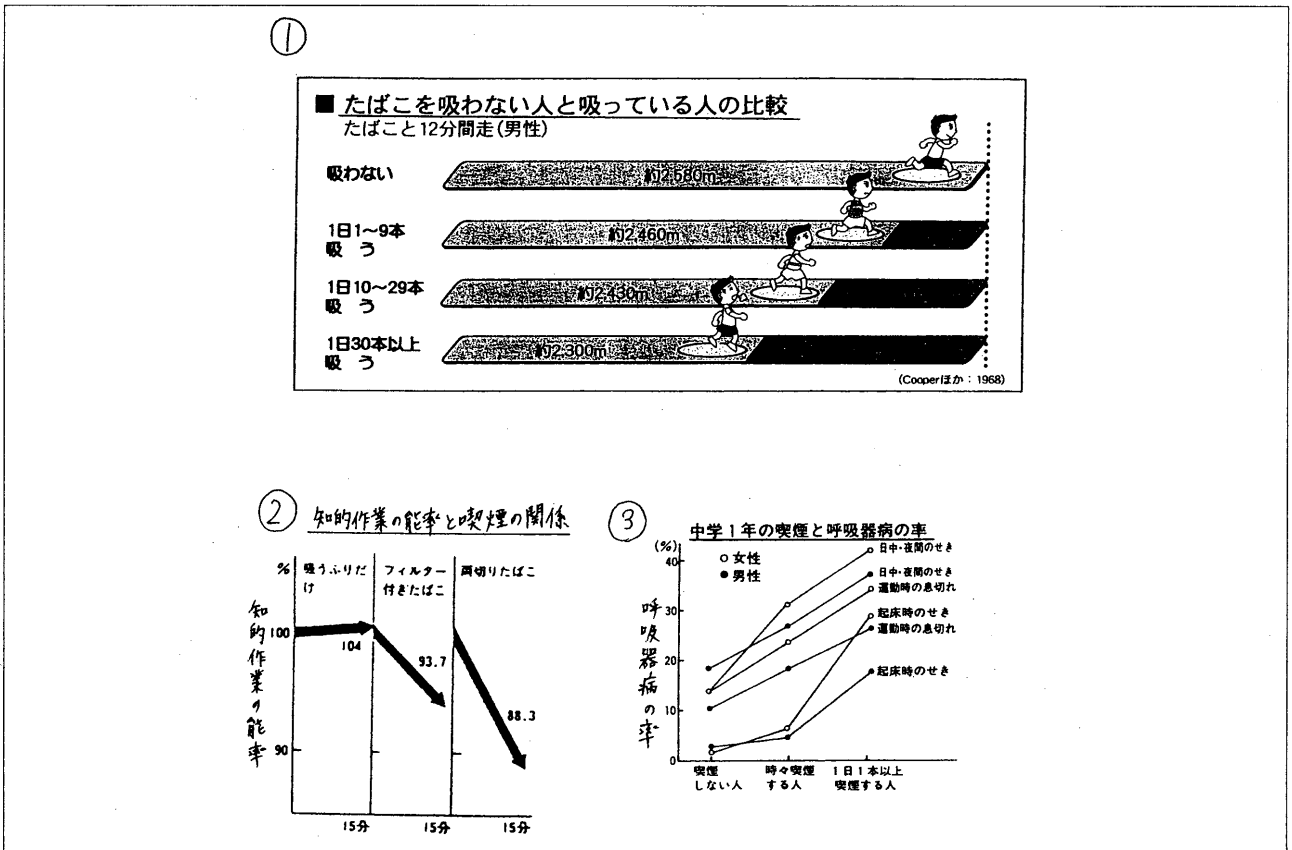
● 睡眠不足を感じている理由 (男子)

● 生体リズムの乱れと生活習慣病の関係

資料 f



資料 g



(3)高校1年生

①実施時間 保健授業にて1時間、クラス単位、

②指導の目標

- ・性感染症の症状・種類・感染経路について知識を深める。
- ・性感染症は身近な感染症であり、10代～20代に多い感染症であることに気づく。
- ・性感染症に感染しないようにするためには、どうしたらよいか自分のこととして考える。
- ・性感染症に感染してしまったらどうしたらよいか理解する。

③授業者 名古屋大学医学部学生 山之内高志

④指導の過程 (指導案)

性感染症とその予防

学習内容	学 習 活 動	展 開 上 の 留 意 点
性感染症とは	指示1. 「物語No. 1」を各自で読んでください 「物語No. 1」を読む 発問1. その後A君とBさんはどうなるでしょう。 「物語No. 1」から今後ふたりに起こると考えられることを発表する。 ・別れる ・結婚する ・エイズにかかる ・Bさんが妊娠する 話1. 今日は性感染症について学習します。性感染症はSTDともいいます。性感染症とは性行為で感染する病気のことをいいます。性器に症状がでる病気という意味ではありません。性行為とは膣性交・口腔性交・肛門性交があります。	「物語No. 1」を配布する。 生徒がほぼ読み終わったところで発問する。 性感染症に関するものが出てきたら取り上げる。出なければ、指導者が話題にする。(クラミジアという言葉聞いたことがないかなど) 膣性交の図を提示し、感染のしかたを説明する。粘膜の接触で感染することを理解させる。 口腔性交 (オーラルセックス) について補足する。
性感染症についての誤解	指示2. 「物語No. 2」を各自で読んでください 「物語No. 2」を読む 同じプリントの「性感染症の偏見迷信に注意」を見る 話2. 性感染症は人を選びません。いくら愛し合っていても感染するし、感染しても症状がでないこともあります。粘膜の接触でうつるのだから、口腔性交 (オーラルセックス) でも感染します。	「物語No. 2」を読み終わったところで「性感染症の偏見迷信に注意」の5項目を読み上げて、本当かどうか問いかける。

学習内容	学 習 活 動	展 開 上 の 留 意 点
<p>性感染症の現状</p>	<p>発問3. グラフ1「自覚症状があり病院に行きSTDであった人の数」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフ2「妊婦さんのクラミジア陽性率」を見てわかることはどんなことですか。 <p>グラフ1からわかることを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20代女性に多い ・35才からは女性より男性のほうが多くなる <p>グラフ2からわかることを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10代, 20代に多い ・10代の未婚妊婦に多い <p>10代, 20代に感染者が多く、自分たちに無関係のことでないことに気づく。</p>	<p>症状があっても受診しない人もいるので実際にはもっと多いことを補足する。</p> <p>指名して聞く。</p> <p>発表に対してコメントする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染数の多さは性生活の活発性(パートナーのかわりやすさ)に関係 ・女性の方が感染しやすい(膣粘膜が広く、傷つきやすい) ・30代以降は特定の相手との安全な性交をする機会が増え、女性の感染が減ってくる。 ・性行動の活発性・多様性 <p>流産、早産の可能性や目などにウイルスがついて障害が出ることもあることにもふれる。</p>
<p>性感染症の種類と症状</p>	<p>資料「STDの病名症状等の例」を見て性感染症の種類や症状などについて理解する。</p> <p>初期症状は無症状のものが多くことに気づく。 感染しても症状がでるまでにかなり期間がかかるものもあることに気づく。</p> <p>病原体が増殖・存在する場所を確認する</p>	<p>資料にそって、説明する。</p> <p>症状の写真を提示する。</p> <p>感染に気づかないまま広げてしまうことがあることをおさえる。 クラミジアの感染が一番多いことを伝える。</p> <p>性器の図を用いて病原体が増殖する場所を確認し、感染経路の理解を深める。</p>
<p>性感染症の予防</p>	<p>指示3. 「物語No. 3」を各自で読んでください</p> <p>発問4. AさんとBさんの物語はこれで終わりですそれでは、性感染症にかからないようにするためには、どうすればよいのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セックスをしない ・特定の相手とセックスする ・コンドームを使う ・わからない <p>話3. セックスしないということが一番安全です。でも、セックスする場合には、正しくコンドームを使用して予防することが大切です。それから、できるだけ特定の相手の方が感染しにくく、感染を広げにくい。本当に相手(パートナー)のことを大事に思うなら検査を受けることも必要です。また、からだをいつも清潔にしておくことも大切です。</p>	<p>コンドーム以外の避妊法は、性感染症を防ぐことはできないことを補足する。</p> <p>特定の相手とのセックスでも感染することを説明する。</p>

学習内容	学 習 活 動	展 開 上 の 留 意 点
<p>性感染症にかかってしまったら</p> <p>まとめ</p>	<p>発問5. 性感染症にかかったかもしれないと思ったら何科にかかればよいのでしょうか。</p> <p>・婦人科 ・泌尿器科 ・皮膚科</p> <p>・性病科</p> <p>話4. もし、性感染症にかかったかもしれないと思ったら病院で検査や治療を受けることが必要です。しかし、感染初期は症状もほとんどなくなかなか気づきにくいものです。だから、自分で早く気づけるように健康なときの自分の体を知っておくことが大切です。つまり、普段の自分の性器の状態や色、おりものや精液のようすなどをよく観察しておき、その変化に気づくことができるようにしておくことです。そして、もしかしたらと思ったら、病院で検査を受けてください。</p> <p>きょうは、性感染症について学習しました。</p> <p>性行動を選ぶとき、自分の体だけでなく、パートナーの体を思いやり大切にしなければなりません。性感染症や望まない妊娠をさけるためにはどうしたらよいかパートナーとよく話し合える関係であることが大切です。</p>	<p>性病科がでなければ、指導者で補足する。</p> <p>必ず、パートナーと二人で治療する必要があること、治療中、セックスはしないことを押さえておく。</p> <p>性感染症にかかっていると粘膜の防御機能が低下しているのでAIDSなどにも感染しやすくなることも伝える(AIDSについては別の時間に学習する)。</p>

6. 板書計画

<p>性感染症</p> <p>STD (Sexually Transmitted Diseases)</p> <p>性行為で感染する病気</p> <p>性器に症状が出るという意味ではない。</p> <p>性行為…陰性交、口腔性交 (オーラルセックス)</p> <p>肛門性交 (アナルセックス)</p>	<p>何科にかかればよいか</p> <p>婦人科 泌尿器科</p> <p>皮膚科 性病科</p>	
<p>陰性交の図</p>	<p>男女の性器の図</p>	<p>性感染症の症状の写真</p>

7. 資料

<p>No.1</p> <p>高2の男A君は塾に通いはじめ、そこでBさんと知り合いました。二人はとても気が合い、お互いのことが好きになっていき、つきあう事になりました。つきあってからも、どんどん仲良くなっていっていきました。</p> <p>ある日、家族は旅行でいなくなったBさんの家にA君が泊まりに行き、その日、A君とBさんはセックスをしました。二人はとても深く愛しい、お互いにこれ以上愛せる人なんていないと思う程でした。</p> <p>その後A君とBさんはどうなるでしょう？</p>
--

No.2

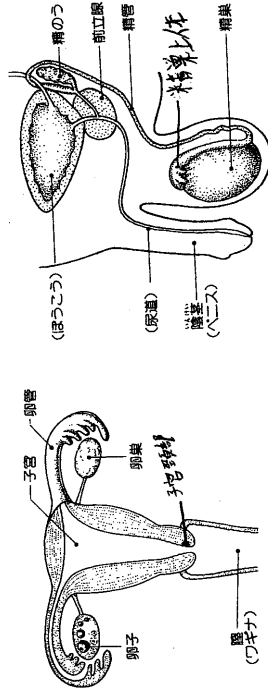
一週間後の朝、A君は目覚めるとある異変に気がきました。パンツの中が少しネバっとしているようでした。夢精にしては量が少ないような気がしました。また小便の時にムズムズするような気がします。気のせいかと思い、2、3日様子を見てみましたが、やっぱり変わりがない様です。

悩んだ末、Bさんに性感症かもしれない事を打ち明けました。Bさんは、「自分には変な症状なんて無いんだから私は病気になる。A君がそんな病気になるのは、*風俗のような所にいったんだ。私の事を好きじゃなくなったんだ。」と思込み、A君が好きだからこそショックでした。そして「風俗に行っただ。」と言って、泣き出しました。A君は風俗など行っておらず、しかもこないだのBさんとが初めてだったので、一生懸命誤解を解こうとBさんにその話をして説得しました。

* 風俗…ここでは性的サービスを行う店の意味

性感症の偏見迷信に注意！

風俗に行かなければ関係ない
 愛があればうつらない
 見た目でわかる
 かかっているのは絶対にわかる
 オーラルセックスなら大丈夫

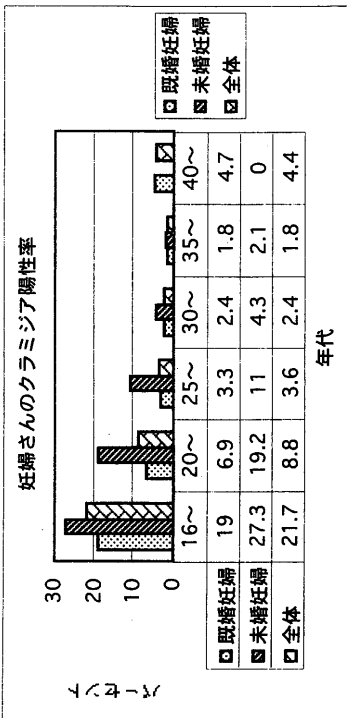


男子生殖器の断面図 (側面)

女子生殖器の断面図 (正面)

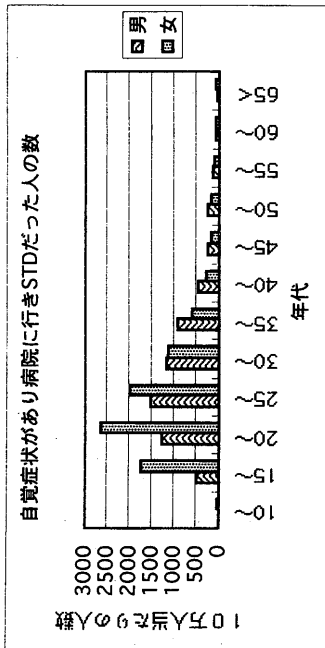
1999年

グラフ2



2000年

グラフ1



STD の病名症状等の例

病名<種類>	潜伏期間	増殖存在場所	初期主症状	その他
性器クラミジア (女) <細菌>	約2週間	子宮頸部 子宮、卵管等	70%以上が無症状 軽度のおりものの増加	不妊症になる可能性
性器クラミジア (男) <細菌>	1~3週間	尿道 膀胱、精管等	約半数が無症状 尿道のかゆみ、尿道から液体	不妊症になる可能性
淋病 (女) <細菌>	7日以内	子宮頸部 子宮、卵管等	約半数が無症状 おりものの増加	不妊症になる可能性
淋病 (男) <細菌>	3~10日	尿道 膀胱、精管等	排尿痛 尿道から膿	不妊症になる可能性
性器ヘルペス <ウイルス>	2~10日	性器から肛門にかけての皮膚とその神経	性器の辺りに水膨れができて痛い	口の周りにもできる 治ってもウイルスは完全にいなくなり再発することもある
尖形コンジローム <ウイルス>	数週間~ 数カ月	性器とその周辺の皮膚	性器の辺りにイボができる	治しても再発しがち
梅毒 <細菌>	約3週間	感染場所となる性器の皮膚 血液、精液 膿分泌液	感染した場所に赤く固いはれ物ができる が痛くない	感染後3ヶ月後に全身に赤みや発疹が表れる 完全に治癒できる 3年以上放っておくと危険
トリコモナス症 (女) <寄生虫>	4~20日	膣	おりものの増加 外陰部のかゆみ	極稀に風呂や便器からも感染
トリコモナス症 (男) <寄生虫>	?	尿道、膀胱 前立腺	ほとんど無症状	尿道に寄生虫
毛ジラミ <寄生虫>	1~2ヶ月	陰毛	かゆい 陰毛の根元に白っぽいフケみみたいな物がある	シーツやタオル等からも感染することがある
B型肝炎 <ウイルス>	1~6ヶ月	肝臓 血液、精液 膿分泌液	発熱、吐き気、だるさ	主にキャリアからうつる 通常発症後2~3ヶ月で回復するがごく稀に劇症肝炎を起こして危険
エイズ <ウイルス>	平均10年	血液、精液 膿分泌液	感染2~4週間後に風邪のような症状	詳しくは次回の授業を聞いて下さい

No.3

A君の心からの説得により、Bさんは落ち着きを取り戻しました。Bさんは、以前バイト先の先輩と付き合っていた事、性的な関係を持った事、だけ自分には何も異常が無い事を打ち明けました。A君はBさんと先輩のことがショックだったらしく不機嫌そうな顔をしていました。Bさんはその重い雰囲気を変えようと、「昔はそんなこともあったけど、今はあなたが好きで、あなたの事を一番大事に思ってる。」と言いました。A君は「ありがとう。そうだね、今これからは大事にしよう。」と言いました。

その後、二人は相談して、二人で病院に行き検査してもらおう事にしました。その結果二人はクラミジアに感染していることがわかりましたが、数週間薬を飲む事により治りました。

～バカップル物語～

③生徒の感想

『すごく私にとってはわかりやすい授業でした。クラスの中がその授業に集中してるって感じで、笑いもあったし印象に残っています。性感染症は、体験したこともないし、学んだこともなかった(名前も知らなかった)。でそういう意味では、私は一番危なかったんだと思うけど、授業を聞いて、やっと内容が理解できて、すごく危険なことだったんだってわかりました。それに一人がかかるとみんなに感染していくので、一人だけの問題じゃないんだってこともわかりました。(女子)』

『自分の将来に役に立つことなので、授業聴いてよかった。自分が感染していたら、つらいなあ。(男子)』

『2・3種類がたくさんの人に感染していると思っていたから、意外に種類がたくさんあって驚いた。クラミジアくらいは聞いたことはあったけど、他は全然知らなかった。病気になっても無症状というのは、やっかいだと思う。大体症状があっても、そういう場所だとほかっと思ってしまう。少しの変化でも気にしなきゃだめなのかもと思った。先生のストーリー仕立ての授業はおもしろかった。印象的なこととか一回で覚えた。一つの感染症にかかると他のにもかかりやすくなるとか、妊婦さんだと子どもに感染してしまうとか。やはり、Hをすることはいろいろ大変だと思う。(女子)』

『あまり考えたくないことだけど、考えなくてはいけないことだなあと思いました。というわけで考えることにします。(男子)』

『性感染症について、僕はずっと毛ジラミっばいのがついてかゆくなるのかなあ、くらいにしか考えていなかった。けれど、それだけじゃなく他にもいろいろな病気があって、放っておくと不妊症になってしまうものとか、赤ちゃんに影響があるものとか、とにかく恐ろしいということを知って、なかなかこわかった。今までの性行為のイメージみたいなものをよりリアルにしてくれて、ありがたいような、ありがたくないような気がした。(男子)』

『はっきり言って知らない分野だったので知識としてはよいが、あまり興味のあるものではない

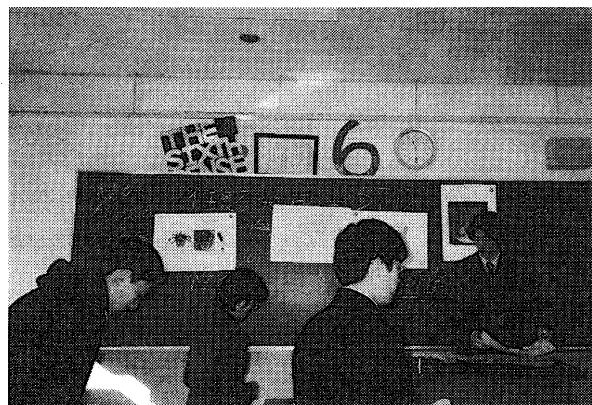
し、それほど強い印象を与えるものではなかった。授業自体は、それなりにわかりやすかった気がするが、高1ですべきかは疑問が残る。(男子)』

『今までは、性感染症なんて自分には関係ないと思っていたけど、高校生になっていつなってもおかしくないので、きちんと気をつけたいと思った。自分の親の時代には、こういう授業は無かったって言ってたけど、とても大切なことでちゃんと授業で習えてよかったと思う。それから、自分自身で思ったことは、もし自分が性感染症になったらちゃんと相手や親に言えるのかなと思った。(女子)』

『とてもおもしろくてためになる授業だった。今までまったくといっていいほど、性感染症について知らなかったし、誤解しているような部分もあった。この日かぜひいて(休んで)なくて本当によかったと思う。先生は、恥ずかしい内容だったけれど、少しも表情を変えずに授業をしてくれたので、さすがだと思った。(男子)』

『いろいろと話を聞くなかで、性の大切さや自分の性に対する考えの甘さがわかりました。それに、もしいざという時に病院のどこへ行けばいいかなど具体的に教えていただき自分のためになりました。(男子)』

(文責：加藤容子)



4. アンケート結果について

名古屋大学医学部予防医学教室と共同で、2001年5月に附属学校生徒中学1年生から高校2年生まで、463人を対象にアンケートを実施した。その集計結果は、表1の通りである。

表1. 「STD (性感染症) と膣外射精という言葉は何によって知ったか」について (複数回答あり)

	授業	雑誌	TV	インターネット	ビデオ	先輩	友人	親	兄弟姉妹	その他	知らない
STD (人)	289	81	127	16	21	15	34	14	7	28	84
(%)	62.4	17.5	27.4	3.5	4.5	3.2	7.3	3.0	1.5	6.0	18.1
膣外射精 (人)	190	94	46	14	46	32	96	2	3	21	133
(%)	41.0	20.3	9.9	3.0	9.9	6.9	20.7	0.4	0.6	4.5	28.7

また、今回授業に協力していただいた山之内さんは、次のような調査を実施した。中高生が読むと思われる10誌、JJ、an,an、non-no、cancan、JUNON、Seventeen、HotDogPress、Boys Rush、Men's NONNO、POPYEについて、2001年の1年間の雑誌155冊について、性関係の特集の有無、さらにその中で、STD、避妊についての記述の有無を調査した。結果は、表2の通りである。「男性誌は、性に関する特集を組むことが多い割には、女性誌に比べ、避妊やSTDについての記載が少なかった。また、全体で見ると、性関係の特集で半数以上が避妊について触れておらず、STDについては3分の2が触れていない。中にはHow To Sexのような特集であるにもかかわらず、避妊やSTDに触れていないものもあった。記載がある場合、多くは医学的に間違っていない事が書いてあったが、全く間違っているものもあった。男性誌の中には、STDに何回もかかって経験を積みなさい等という恐ろしい記述があった。」と、述べている。

表2. 雑誌調査

	冊数	性関係の特集あり	避妊のみ記述	STDのみ記述	避妊・STD両方記述
女性誌 (冊)	83	8	3	0	3
女性誌総数に対する記述率 (%)	100	9.6	3.6	0	3.6
性関係の特集ありの雑誌の中での記述率 (%)		100	37.5	0	37.5
男性誌 (冊)	72	19	2	2	4
男性誌総数に対する記述率 (%)	100	26.4	2.8	2.8	5.6
性関係の特集ありの雑誌の中での記述率 (%)		100	10.5	10.5	21.5
総冊数 (冊)	155	27	5	2	7
総冊数に対する記述率 (%)	100	17.4	3.2	1.3	4.5
性関係の特集ありの雑誌の中での記述率 (%)		100	18.5	7.4	25.9

5. 結果考察

中学2年生と高校1年生は、性の分野、中学3年生は、生活習慣の分野で授業を実施した。

生活習慣の分野では、健康を保持する生活習慣はどのようなものか、病気を予防するためにはどうしたらよいか、という知識は中学3年生ならある程度は持っている。その知識を、生活習慣による健康への影響について、自分の将来に関係することとして捉え直し、健康的な生活を送るための行動にどうつなげていくかが重要である。そのような観点から考えると、自分の血液検査、生活調査、食事調査、運動量のデータから健康な体を考えるという試みは大変良かった。生徒の感想にもあるとおり、生徒が自分自身の問題として生活習慣を見直すことができたからである。大学との連携により先述のような様々な調査ができ、それにより、生徒自身による考察能力の向上が可能になったわけである。

性の分野では、アンケート結果でも分かるように、授業以外でも情報は多くのところで得られてはいる。がしかし、中途半端であったり、友人のうわさであったり（特に陰外射精に関しては友人が情報源という生徒が20%もいる。）、性差別の部分があったり、大切なところが抜けていたり、Sexをあおるようなものだったり、性犯罪をあたかも正当化しようとするものまであったりと深刻な状況である。そこで、中学1・2年保健学習では扱っていない避妊についても総合人間科の少人数講座の機会に取り組むことにした。中学生の授業では特に、生徒一人ひとりの体の変化、性への関心度や状況（男女交際の有無など）に差が大きいため、一斉授業の難しさもある。今回の中学2年生のように希望者対象の少人数授業であれば個々の声に応じることもできるので、しっかりと実施ができる。しかしそうすると、関心のない者、薄い者はいつまでたってもわからない、知らない状況になってしまう。無知によるSTDの蔓延、中絶ほど悲しいものはない。そのような意味では課題が残る。高校1年生では時すでに遅しという生徒もいるが、溢れる情報を冷静に見極める能力を身に付けさせ、現状の問題点を生徒に投げかけながら性教育を何度も実施していくことが大切である。以上のようなことを今回の実践を通して再度、痛感した。

大学との連携により、より専門的な立場からの情報を生徒に提供できるので、授業への関心、動機づけも高いものが得られる。医学生の授業は、同じ青年期を生きる学生からのメッセージという意味からも、生徒に与える印象は強いように感じられた。また、臨床現場の声を生かし、中高生に知っておいてもらいたい内

容などについても検討することができた点や、さらに、医学生が授業前に模擬授業を実施して、大学教官と共に授業の構成や内容について検討を重ねることができた点など、大学教官との連携はとても学ぶところが大きい。

5. まとめ

今回、大学の方々に多くの時間を割いていただき、附属での授業が実現した。連携によってもたらされた成果は、生徒の前向きな授業への取り組みの様子、感想などで十分示すことができる。毎年度継続して実施していきたいが、そのためには、大学教官には特に、相当な無理をお願いしてしまうことになる。時間の確保は今後の検討課題であろう。

(文責：佐藤喜世恵)

6. 引用文献

(1)山之内高志「中高生の読む雑誌におけるSTD、避妊の扱い」『基礎医学セミナー報告集』2001年度名古屋大学医学部医学科学部教育委員会 34頁

7. 謝辞

今回お世話になった、名大医学部予防医学教室の玉腰暁子先生、医学部学生の方の山之内高志さん、横井綾さん、医学部の皆様に感謝いたします。